



血液免疫病学ニュースレター

Vol. 39 | 2023年11月

【発行元】 東北大学病院 血液内科・リウマチ膠原病内科

Address: 〒980-8574 仙台市青葉区星陵町1-1 Tel: 022-717-7165 / Fax: 022-717-7497

Homepage: <http://www.rh.med.tohoku.ac.jp/>

巻頭言

今年は猛暑が長く続き、ほのかな気配を感じる間もなく本格的な秋となりました。これから春と秋がなくなり、夏と冬の2季制になるという説がありますが、あながちとっぴな説ではないと思うようになりました。

さて、前号から少し時間が空きましたので、今回はイベントの紹介が目白押しです。学会、研修医・学生向けセミナーが対面となりましたし、もちろん芋煮会も対面で開催ということで、ウェブ開催の味気ない紹介とは異なり、写真も満載となっています。お楽しみいただければ幸いです。

私自身は前号でご報告申し上げたように、4月より東北大学病院院長を務めており、日常がすっかり変わりました。打ち合わせ一会議一出張一挨拶の繰り返しで、病棟カンファに出席することもなくなり、病棟に行っても看護師さんから「どなたですか」と聞かれそうです。そのうち医局員からも「どなたですか」と聞かれるようになるかもしれません。

私がこのような日常を送るようになって、血液内科・リウマチ膠原病内科のアクティビティーは変わることなく、診療科長・医局長を中心に、まとまりよく診療・研究・教育が動いています。本当に頼もしい限りです。

今後、この医局のアクティビティーをさらに向上させるには、新たな仲間をできるだけ多く迎え入れること、臨床研究・治験を推し進めることが重要で、そのためには関連病院の先生方、OBの先生方のご支援・ご協力が必須です。コロナ禍も明け、医局行事や講演会・学会で直接お会いできる機会も多くなると思いますので、さらに交流・連携を深めていければと思います。

今年も残り少なくなりました。寒さも厳しくなって参りますので、くれぐれもご自愛のほどを。

(張替 秀郎)

【目次】

巻頭言 … 1

学会報告 … 2

受賞報告 … 3

イベント報告 … 3-6

人事異動・新メンバー挨拶 … 7

業績紹介 … 7-8

学会参加報告

第 85 回日本血液学会学術集会

2023年10月13日から15日まで東京国際フォーラムで第85回日本血液学会学術集会が開催されました。血液学会はここ数年、台風や新型コロナウイルスの影響を受けて、変則的な開催が続いていましたが、今年は新型コロナが5類に分類されるなど、久しぶりに制約のない通常の開催となりました。オンラインでの発表が認められた昨年とは異なり、座長や演者は現地での登壇が必須となり、一般演題の聴講にも現地参加が必要でした。これらはコロナ禍前には当たり前であったことで、ここ数年がいかにか特別な状況であったかを感じさせられます。

初日から最終日まで、各会場は非常に賑やかで、参加者数や登録演題数も過去最高を記録したとのこと。当科からも10演題を超える発表を行い、基礎から臨床までの幅広い分野での研究成果を全国にアピールすることができました。また、一般演題の発表だけでなく、他の場面でも医局員の活躍が目立ちました。福原先生が悪性リンパ腫に関する教育講演を行い、小野寺先生は急性骨髄性白血病に関するクリニカルディベートで説得力のある発表をしました。さらに、現在国立がん研究センター中央病院に出向中の大地先生は、学会奨励賞を受賞し、第一会場の大ホールでの表彰式に参加しました。



学会参加の楽しみは日中だけに限りません。2日目の夜には、恒例の医局慰労会が行われました。山形市立病院済生館の木村先生のご尽力により、美味しい料理とお酒を堪能することができました。お酒の手配だけでなく、感染予防のための店貸切りなど、木村先生の細やかな配慮に心から感謝いたします。

コロナ禍でのWEB開催を経験したことで、学会への現地参加の意義を新たに感じています。1年に1度の特別な日の雰囲気や、様々な人々との交流は、現地での体験にしかない醍醐味です。一方で、移動に伴う時間制約などにより、全ての人が公平に参加するのは難しいという課題もあります。今回の学会では一部のプログラムでオンライン配信が行われ、今後も現地開催の欠点を補う形での開催方法が模索されていくことと思います。来年の第86回学会は京都での開催とのこと。皆様と再び現地でお会いできることを心待ちにしています。

(横山 寿行)

当科からの発表演題 (敬称略)

- [P1-am2-3#1] 渡邊 樹也「進行胃癌に対するニボルマブ投与後に発症した後天性血小板減少性紫斑病の一例」
- [P1-am2-4#5] 横山 寿行「同種移植前微小残存病変がNPM1変異陽性急性骨髄性白血病の移植予後に及ぼす影響」
- [O1-pm1-12#3] 鳴海 善洋「初発時限局病変として発症し治療後に再発した節外性NK/T細胞リンパ腫の予後」
- [O1-pm2-13#5] 内堀 雄介「当院における再発難治性の濾胞性リンパ腫に対するCAR-T療法の後方視的検討」
- [O2-pm2-10#2] 燕 艶「正常造血及び白血病におけるヘム合成の役割」
- [MS2-4] 福原 規子「再発・難治性DLBCL/FLにおけるCAR-T細胞療法」
- [EL3-3-1] 福原 規子「濾胞性リンパ腫の治療戦略」
- [O3-am1-9#3/SETP4] 中川 諒「難治性白血病の個別最適化医療を目指した抗アポトーシス分子阻害とCAR-T細胞の併用療法」
- [O3-am2-15#1] 櫻井 一貴「AML with RNUX1::RUNX1T1における血縁者間HLA一致同種移植と非血縁臍帯血移植成績の比較」
- [O3-am2-15#6] 小野寺 晃一「ICC基準により分類したMDSの移植成績」
- [CD3-1-1] 小野寺 晃一「若年FitのMDS-EB2 (またはAML-MRC) に対して高強度化学療法を行うべきか？」
- [O3-pm1-13#5] 川尻 昭寿「自己抗原反応性メモリー表現型CD4+T細胞は全身性炎症を惹起する」
- [O3-pm2-11#3] 市川 聡「EBV関連節性細胞障害性T細胞リンパ腫は極めてアグレッシブな臨床経過を辿る」

受賞報告

大地 哲朗 先生〔令和5年度日本血液学会奨励賞〕

この度、第84回日本血液学会学術集会において私が発表しました演題「Exploring the mechanistic link between SF3B1 mutation and ring sideroblast formation in MDS」により令和5年度日本血液学会奨励賞を受賞致しましたので御報告申し上げます。このように名誉ある賞を頂きましたのもひとえに張替 秀郎 教授、藤原 亨 先生をはじめ多くの研究室スタッフの方々から頂きました多大な御支援の賜物と考えており、この場を借りて御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

本演題は私が大学院時代に取り組んでおりました後天性鉄芽球性貧血に関する研究成果に基づいております。変異

SF3B1を発現する赤芽球前駆細胞株の解析により先天性鉄芽球性貧血の責任遺伝子 ABCB7 の発現低下が後天性鉄芽球性貧血の病態形成にも関わっていることを示しました。

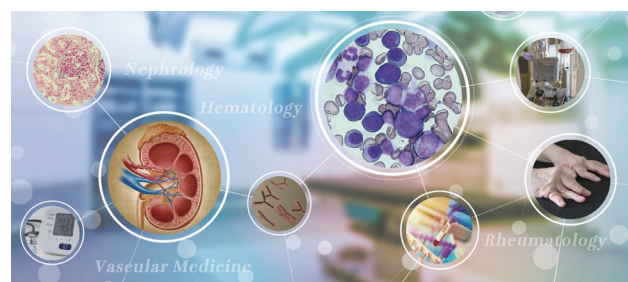
後天性鉄芽球性貧血の研究で頂いた賞ではございますが、これまで当研究室で先天性鉄芽球性貧血の研究に取り組んで来られた方々が積み重ねて下さった知恵・技術無しに今回の受賞はあり得ませんでした。重ね重ねありがとうございました。現在は研究を離れてリンパ系腫瘍の診療がメインとなったため鉄芽球との触れ合いは少なくなりましたが、分野は違えども大学院時代に培った探求心を忘れずに精進して参りたいと思います。



イベント報告

合同医局説明会

昨年に引き続き、2023年6月26日三科合同医局説明会を開催しました。本年は、ハイブリッド開催ということで、週初め月曜日のお忙しいなか各ご施設の指導医のご厚意もありまして、現地・WEB参加と併せますと血液内科・リウマチ膠原病内科全体で二桁を超える多くの研修医の先生方にご参加いただきました。冒頭に三科合同開催の挨拶をさせていただき、すみやかに各科に分かれて具体的なお話をさせていただいた次第です。血液グループの例を申しますと、専攻医(大学勤務)、専攻医(関連病院勤務)、指導医(大学勤務)、指導医(関連病院)とそれぞれの立場からお話いただき、大学院での研究生活や入局後に流れなどをお伝えし、会終了後の懇親会など多方面から懇親を深めさせていただきました。今年の特徴として、東北医科薬科大学一期生が研修医2年目となり、とくに「宮城A枠」奨学生の先生方は、専攻医の選択に色々とお悩まれた年であったように感じます。また、ようやく研修医の先生方と直接お話する機会も増え、当科の特徴ともいえる難治性疾患を多く扱う科のために病気を制御するという目的に向かって患者さんと医



師同士が一致団結しやすく、風通しのよい医局の雰囲気は伝わらばと思う次第です。当たり前かもしれませんが、医学生時代の授業や実習、研修医時代の指導医と過ごす日々の積み重ねが、科の選択に最も重要であるということを経験し、1月下旬から始まる新学期に向けて気を引き締めていきたいと存じます。諸先生方におかれましては、日々医学生の実習指導や研修医・専攻医の指導など教育面でも多大なるサポートをいただき、この場をお借りしまして心より御礼申し上げます。今後ともどうぞ指導ご鞭撻のほどを何卒よろしくお願い申し上げます。

(福原 規子)



イベント報告 (続き)

第15回血液免疫病学セミナー

去る2023年10月28日、仙台国際ホテルにて、第15回血液免疫病学セミナーを開催し、20名の方々(医師14名、医学生6名)に参加して頂きました。

今年は原点に戻り、「明日使える知識から最先端の話題まで」をテーマに、血液免疫疾患の日常診療のtipsから今後実践される可能性のある医療まで、幅広く織り交ぜた内容を準備しました。

小野寺兎一先生より「簡単そうで実は奥が深い貧血の診断」、星陽介先生より「リウマチ膠原病診療のヒント」と題して、日常診療で遭遇しうる貧血、関節炎の症例を提示しながら検査、診断をクイズ形式で答えてもらい、その鑑別のポイントを解説しました。頻度の低い難しい疾患・病態の設問も含まれていましたが、きちんと回答できた参加者もあり、彼らの知識の奥深さに驚きました。

続いては、例年の如く症例を提示し、参加者によるテーブルディスカッションを行いました。まずは、市川より「Welcome to the World of Lymphoma」と題して、悪性リンパ腫の症例を提示しながら、そのアプローチ、治療法について、議論してもらいました。悪性リンパ腫を念頭に置きながらも常に鑑別を意識した診断、緊急性など何を優先して治療選択すべきかについても考察した高度な議論が展開されていたと思います。次に、成田衛先生と森健太郎先生より、「多彩な症状を呈した膠原病の一症例」としてSLEの治療経過中に肺胞出血を合併した症例をもとに、膠原病の鑑別と応じた治療法の選択について議論してもらいました。まれな経過でしたが、プロブレムを丁寧に拾い上げ、各々にアプローチしていくことが十分議論されていました。どちらのセッションでも、医学生の方も積極的に意見を出しマイクを持って発表していた姿勢や、専門医顔負けの高度な診断・治療へのアプローチが印象に残りました。

次に藤井より「膠原病治療の挑戦的な試み」、横山寿行先生より「急性骨髄性白血病治療におけるパラダイムシフト」と題して、各々の領域におけるアンメットニーズと今後展開されるであろう医療の展望について話しました。

最後に、石澤賢一先生より「余はいかにして血液内科となりしか」という題で、物理学科を経て医学部入学、血液内

科医となり、アカデミアで臨床研究を志し実践してきたキャリアパスを話して頂きました。読書家でもいらっしゃる石澤先生が人生の中で影響を受けた言葉もいくつか示して頂き、聞いていた方々の心に響いたのではないかと思います。張替秀郎先生のclosing remarksでセミナーは終了しましたが、その後の懇親会では、遠藤一靖先生の御挨拶、一迫玲先生の乾杯の御発声に続き、石井悠翔先生によるキャリアパスと留学生活についての話も盛り込みながら、スタッフと参加者の交流を行いました。和やかな雰囲気の中、ざっくばらんに学生・研修医の皆さんと親睦を深めることができ、我々としてもとても有意義な機会となりました。

本セミナーはコロナ禍のため4年ぶりの開催、また、初の日帰りのセミナーということで不安な点もありましたが、参加者の方々の議論、懇親会での歓談の様子、そしてアンケートの結果から見ると、今年のセミナーも例年に劣らず充実した内容となったと思います。参加して頂いた先生方、会の準備進行を行ってくれた医局員、スタッフの皆様、毎回本会の開催をサポートして下さるREAD血液アカデミーに深く感謝申し上げます。本セミナーは東北地方における血液・免疫病診療を若い先生方に啓蒙し、そのレベルアップを目的としております。今後も微力ながらその役に立てればと思しますので御指導御鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

(藤井 博司, 市川 聡)





イベント報告 (続き)

第二内科合同芋煮会

今年の芋煮会は2023年11月3日金曜日の文化の日に新型コロナウイルス感染症蔓延後、2019年以来3年ぶりに、広瀬川牛越橋下河原にて開催されました。当日は気温も20℃越えの秋晴れの中、久しぶりの対面で交流を深めることができました。

前回より、この芋煮会は第二内科合同で行われており、本年も血液内科、リウマチ膠原病内科、腎臓・高血圧内科、東西14階で開催いたしました。また、関連病院からも多くの先生に参加いただき過去最高の総勢60名近くの多くの方々に参加いただきました。

本年も山形市立病院済生館木村先生より手作りオリジナルカレー、ラムチョップ、自作京野菜焼きそば、藤井先生の奥様のご実家より牡蠣を含めて多くの皆様から豪華な差し入れをいただきました。色づいた木々や広瀬川の流りに囲まれて、美味しい料理とお酒に舌鼓を打ちながら、久しぶりのマスクなしのコミュニケーションで近況を共有し、一層の親睦を深めることができました。

放送を見られてお気づきになられた方もいらっしゃると思いますが、大盛況のおかげで、仙台放送に取材を受けて、夕方のニュースに我々の芋煮と血液内科の小松先生のコメントが放送されました。

3年ぶり最多参加者の会となり、運営も心配しておりましたが、がんセンター鎌田先生・小松先生、腎臓・高血圧内科野口先生・木之村先生、血液内科田中先生・櫻井先生、リウマチ膠原病内科岡崎先生、秘書久賀谷さんを始め、参加者皆様のご協力のおかげで無事大盛況の中終えることができました。この場をお借りして感謝申し上げます。

コロナ禍後、対面の交流の場は、減少しておりましたが、様々な科、施設、職種、家族間で交流し、お互いのことをよりよく知ること、コロナ禍の終焉を感じるとともにお互いをより強く認識し、チームとしてより一層の結束が生まれたのではないかと思います。

また、来年皆様と食欲の秋を堪能できるのを楽しみにしております。

(石井 悠翔)



人事異動

2023年11月までの当科の人事異動についてお知らせ致します。

【転入・採用】

中川 諒 先生 仙台市立病院 → 血液内科 医員 (10月～)
石井 悠翔 先生 米国 Emory University → リウマチ膠原病内科 助教 (10月～)
島貫 美和子 さん 移植コーディネーター (8月～)
佐々木 友栄 さん 事務補佐員 (7月～)

【転出】

川尻 昭寿 先生 血液内科 医員 → 仙台市立病院 (10月～)

新メンバー挨拶

島貫 美和子 さん〔移植コーディネーター〕

8月より移植コーディネーターとして入局しました。看護師の島貫美和子と申します。

出身は大阪で結婚とともに来仙しました。前職は腎臓内科勤務が長かったので大学病院へは震災後の腹膜透析の寄附講座の立ち上げで入職し、その後看護部に移行し、色々な縁で自己血輸血看護師、臨床輸血看護師、アフエーシス看護師の認定を取得し現在に至っています。慣れない事務業務に四苦八苦しています。今後は造血幹細胞移植の拠点病院のHCTCとしてのコーディネーターの資格を取得し、アフエーシス看護師として治療に携わり、また看護師の育成を行なっていきたいと思っております。ご指導ご鞭撻の程よろしくお願致します。

佐々木 友栄 さん〔事務補佐員〕

7月より造血幹細胞移植推進拠点病院事業の事務補佐員として入局いたしました佐々木友栄と申します。趣味は、美術館・博物館・神社仏閣へ行くことです。プライベートでは、犬と金魚と亀を飼っています。

これまで、主に経理系の事務補佐員として10年以上、東北大学の事務に携わってきました。直近では、去年の8月まで当院の経理課資金経理係で事務補佐員として5年勤務しておりました。医局での業務は初めてで不慣れな為、分からないこともあり、ご迷惑をおかけすることが多々あるかと思いますが、一日も早く業務に慣れ、お役に立てるよう精一杯努めてまいります。ご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い致します。

業績紹介

2023年5月～11月の当科の業績について紹介致します。

血液

- Ichimura H, Ichikawa S, et al. Severe Bone Marrow Aplasia Following Macrophage Activation Syndrome in Systemic Lupus Erythematosus. *Tohoku J Exp Med.* 2023 Aug 11;260(4):301-304.
- Onishi Y, et al. Comparison of Haploidentical Stem Cell Transplantation with Post-Transplantation Cyclophosphamide versus Umbilical Cord Blood Transplantation in Adult Patients with Aplastic Anemia. *Transplant Cell Ther.* 2023 Sep 18:S2666-6367(23)01548-8.
- Onishi Y, Furukawa E, et al. Outcomes of adult patients with early T-cell precursor (ETP) acute lymphoblastic leukemia/lymphoma (ALL) and non-ETP T-ALL. *Int J Hematol.* 2023 May;117(5):738-747.
- Uchibori Y, Onodera K, et al. Umbilical Cord Blood Transplantation for Myelodysplastic Syndromes with Donor-Specific Anti-HLA Antibodies against HLA-DP. *Tohoku J Exp Med.* 2023 Oct 17;261(2):123-127.

免疫

- Katakura T, Shirai T, et al. Successful management of interstitial lung disease in dermatomyositis complicated by malignancy: a case-based review. *Rheumatol Int.* 2023 Sep 8. doi: 10.1007/s00296-023-05442-y. Online ahead of print.
- Shirai T. Common Autoantibody among Takayasu Arteritis and Ulcerative Colitis: A Possible Pathophysiology That Includes Gut-Vessel Connection in Vascular Inflammation. *JMA J.* 2023 Jul 14;6(3):265-273. doi: 10.31662/jmaj.2023-0038.



業績紹介 (続き)

- Yamato M, Shirai T, et al. First reported case of pulmonary arteritis in patients with relapsing polychondritis. *Rheumatology (Oxford)*. 2023 Jun 16;kead300. doi: 10.1093/rheumatology/kead300. Online ahead of print.
- Yasaka K, et al. Phospholipase D4 as a signature of toll-like receptor 7 or 9 signaling is expressed on blastic T-bet+ B cells in systemic lupus erythematosus. *Arthritis Res Ther*. 2023 Oct 16;25(1):200.

共同研究

- Akaishi T, Harigae H, Ishii T, et al. Blood Culture Result Profile in Patients With Central Line-Associated Bloodstream Infection (CLABSI): A Single-Center Experience. *Cureus*. 2023 Jun 9;15(6):e40202.
- Arakawa Y, Fukuhara N, et al. Karnofsky Performance Status and quality of life in patients with relapsed or refractory primary CNS lymphoma from a phase I/II study of tirabrutinib.
- Fuji S, Onishi Y, et al. Impact of HLA disparity on overall mortality risk in patients with extensive chronic GVHD: The HLA Working Group of Japanese Society for Transplantation and Cellular Therapy. *Bone Marrow Transplant*. 2023 Nov;58(11):1257-1259.
- Goto H, Onishi Y, et al. Safety and efficacy of tisagenlecleucel in patients with relapsed or refractory B-cell lymphoma: the first real-world evidence in Japan. *Int J Clin Oncol*. 2023 Jun;28(6):816-826.
- Izutsu K, Fukuhara N, et al. Subcutaneous epcoritamab monotherapy in Japanese adults with relapsed/refractory diffuse large B-cell lymphoma. *Cancer Sci*. 2023 Nov 3. doi: 10.1111/cas.15996. Online ahead of print.
- Izutsu K, Fukuhara N, et al. Measurable residual disease in Japanese patients with relapsed or refractory chronic lymphocytic leukemia treated with venetoclax. *Int J Hematol*. 2023 Oct;118(4):526-528.
- Kameda K, Fukuhara N, Harigae H, et al. The hepatic niche leads to aggressive natural killer cell leukemia proliferation through the transferrin-transferrin receptor 1 axis. *Blood*. 2023 Jul 27;142(4):352-364.
- Kawahata K, Ishii T, et al. Phase 3, multicentre, randomised, double-blind, placebo-controlled, parallel-group study of ustekinumab in Japanese patients with active polymyositis and dermatomyositis who have not adequately responded to one or more standard-of-care treatments. *RMD Open*. 2023 Aug;9(3):e003268. doi: 10.1136/rmdopen-2023-003268.
- Lesokhin AM, Yokoyama H, et al. Elranatamab in relapsed or refractory multiple myeloma: phase 2 MagnetisMM-3 trial results. *Nat Med*. 2023 Sep;29(9):2259-2267.
- Negoro E, Fukuhara N, et al. Japanese subgroup analysis in the Asian phase II study of darinaparsin in patients with relapsed or refractory peripheral T-cell lymphoma. *J Clin Exp Hematop*. 2023;63(2):108-120.
- Maeda A, Ishii T, et al. Efficient detection of somatic UBA1 variants and clinical scoring system predicting patients with variants in VEXAS syndrome. *Rheumatology (Oxford)*. 2023 Aug 22;kead425. doi: 10.1093/rheumatology/kead425. Online ahead of print
- Ogura M, Fukuhara N, et al. Long-term follow-up after R-High CHOP/CHASER/LEED with Auto-PBSCT in untreated mantle cell lymphoma-Final analysis of JCOG0406. *Cancer Sci*. 2023 Aug;114(8):3461-3465.
- Sugihara T, Ishii T, et al. Establishing clinical remission criteria for giant cell arteritis: Results of a Delphi exercise carried out by an expert panel of the Japan Research Committee of the Ministry of Health, Labour, and Welfare for Intractable Vasculitis. *Mod Rheumatol*. 2023 May 24;road046. doi: 10.1093/mr/road046. Online ahead of print.
- Tanaka Y, Ishii T, et al. The long-term safety and tolerability of anifrolumab for patients with systemic lupus erythematosus in Japan: TULIP-LTE subgroup analysis. *Mod Rheumatol*. 2023 Sep 14;road092. doi: 10.1093/mr/road092. Online ahead of print.

